



がんばろう!宇和島

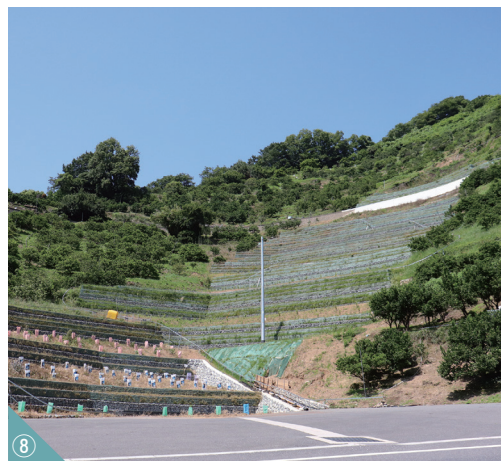


未来を共に創る

発災から3年。取り戻してきた日常の中に残る爪痕。
それでも力強く前へ進み、築きあげてきたもの。
復興へと前を向き進んできた私たちには強い絆があります。

それは支援していただいた人たちと
共に復興に取り組んできた
みなさんとのつながりー。

多くの人たちに支えられ、手に入れた今。
今月はこれまでの歩みとこれからも「未来
を共に創る」人たちの想いや声を皆さんに
届けます。



①当時植えられたミカンの苗木②かんきつ園地が大きく崩れ山肌があらわに③土砂が流入した吉田浄水場④園地の復旧作業のために土のうを積む様子⑤園地に流れ込んだがれきなどの撤去作業も⑥急務となったミカン摘果作業をボランティアに手伝ってもらった⑦完成した吉田仮設浄水場⑧整備が進み苗木を植えた園地⑨復旧作業が続くがまだ残る爪痕



未来へ向けて

どう「つながり」を作っていくか

平成30年10月19日に「宇和島市復興まちづくりアドバイザー」に就任。かんきつなどを中心とした産業の復興や復興人材の育成、外部企業との連携強化など復興施策全般への指導、助言により本市の創造的復興を多方面に支援。

(一社)RCF代表理事
藤沢 烈^{れつ}さん

平成30年7月豪雨災害から3年。3年というと1つの区切りのように感じますが、道半ばだと言われます。東北や熊本、千葉の災害復興にも関わりながら本市にも力添えをいただいている藤沢さんに、復興のこれまでとこれからについて話を伺いました。

これまでの3年間を振り返って

これまでを振り返って藤沢さんに宇和島市の印象を伺うと、地域の人たちの前向きな姿勢がとても印象的だったと話します。

発災当初、特に被害の大きかったかんきつ産業の復興に取り組むことが必要でしたが、農家の人たちの高齢化や後継者不足などの懸念がありました。しかし、農家の人たちの新しいものを取り入れる姿勢や誇りと自信を持ってかんきつ産業を取り戻すという姿を見てきた藤沢さんは、今その努力が実り始めていると感じているそうです。

特に新規就農者支援の取り組みでは、受け入れ先の増加や後継者の育成、横のつながりの強化が図られています。こうした新しいものが入ってくるのが重要である一方で地域によっては受け入れに消極的なところもあります。宇和島は温かく迎え入れてくれるという印象を受けたそうです。

また、かんきつの販路開拓支援では、宇和島かんきつのブランド力を高めるために「宇和島みかん」のホームページ開設支援を行いました。JAえひめ南がサイトの運

営にあたっては担当者の理解も早く、新しいものを取り入れるための努力をした結果が出てきており販売も順調だそうです。

新しいことを積極的に取り入れ、自分たちの力で実行することで、着実に復興へ進んでいると感じていると話してくれました。

築いてきたもの

かんきつ産業の復興はもちろん、本市の復興への取り組みの中で今注目していることの1つが、宇和島NPOセンターの活動だと話します。

災害直後の被災者支援は行政や民間団体などの連携がうまくいかないことが多く、それぞれが個々で支援を行うため人や資金などが不足し、活動が出来なくなる事例があります。これを解消するため、行政だけでは支援が行き届かない部分を、民間の力が中間に入り支援活動をするのが宇和島NPOセンターであり、その活動を行政などが支援することで細かいところにも行き届く息の長い支援になっていきます。

災害を契機として立ち上がってから現在まで、防災に限らないさまざまな活動を継続的に行っており、災害から復興へ向かうまちの中間支援活動のモデルケースとして全国的にも評価される動きだと言います。

未来を作るつながり

これからの復興を進めていく上で必要なことは、「つながりを作り、次世代へつなぐこと」と藤沢さんは話します。くらしを取り戻すだけでなく、新たな取り組みを取り入れながら、地域での活動や次世代への教育の中で、どうつながりを作っていくかが大切であり、それが復興の大きなテーマとなると言います。

例として、岩手県釜石市では「釜石コンパス」という高校生が人生の先輩から生き方、働き方について学ぶという活動をしているそうです。高校卒業後進学などで市外へ出てそのまま戻ってこない若者たちが多く中、地元へ戻って活躍する道もあることを教育の現場で伝えています。地元若者が増えることで新たなつながりが生まれ、さらに次の世代へとつながっていきます。このことが、今後の復興とその先の地域が抱える課題解決に向けたヒントになると話していただきました。

3年は決して区切りではありません。藤沢さんをはじめ、これまで築きあげてきた多くの「つながり」をこれからも大切にしながら、次世代へしっかりとつなげていかなければなりません。



宇和島での会議の様子



今度は自分たちが助ける

宇和島地区広域事務組合
宇和島消防署

薬師寺 正竜 さん (吉田町立間尻)
薬師寺 凜 さん (吉田町沖村)

憧れを現実

当時高校3年生だった薬師寺正竜さん。発災時は、吉田の自宅が自分の胸あたりまで浸水するほどの被害に遭いました。被害に遭った自宅の片付けなどを所属していた野球部の仲間たちに協力してもらい生活を取り戻していききました。

混乱の中、消防士や自衛隊の人たちの救助活動を間近で見ても、とても安心すると同時に自分もこうなれたらと憧れを抱いたそうです。これをきっかけに、ただ漠然

と描いていた将来の夢について真剣に考えるようになり、消防士の道に進むことを決めました。

現在は、頼もしい先輩たちと火災の現場などに向かい、消防活動を行うなど、地域の人たちの暮らしを守るために奮闘しています。「これから入ってくる人たちに指導できるよう早く仕事を覚えていきたい。また、あの日現場で見た救助隊の人たちのように、有事の際にはみなさんを安心させられる、助けられる救助隊員になるために毎日の訓練に励んでいます」と力強く話してくれました。

平成30年7月豪雨災害時、高校生だった子どもたちもそれぞれの想いを胸に大人へと成長しています。当時自分たちを助けてくれた人たちのように、災害現場で人を助けることを志し毎日まい進する2人の消防士に話を聞きました。



地元の力になりたい

当時高校2年生だった薬師寺凛さんも災害を経験しました。当時は特になりたい職業がありませんでしたが、被災した友人の手伝いをするうちに、人を助ける仕事に就きたい、地元の力になりたいと思うようになりました。その想いを家族にも相談し、消防士の試験を受けて見事合格。現在は消防士として奮闘中です。仕事は大変ですが、周りの先輩たちの支えもあって働きやすい職場だと思います。「今は救命士について勉強中です。自分のような女性の隊員

はまだ少ないけれど、とてもやりがいのある仕事なのでもっとたくさんの人に受けてほしい」と一緒に地域を支える仲間が増えることを期待しています。

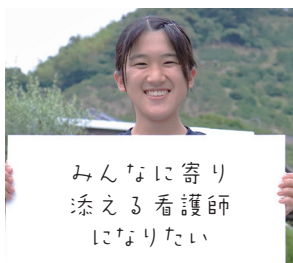
あの日から3年―。

私たちの復興への歩みと共につなげてきた想いは、これからの宇和島を担っていく若い世代にもしっかりと受け継がれています。これからは、彼らがその想いと共に宇和島の未来を創っていく、次の世代へつなげていってほしいとでしよう。

上・中：発災時の自宅前の様子。正竜さんの胸のあたりまで浸水し、家や車が半分近く浸かりました。下：災害から数日後の家の様子。水は引きましたが、床や壁にも泥が残り、バットや教科書なども泥だらけに。

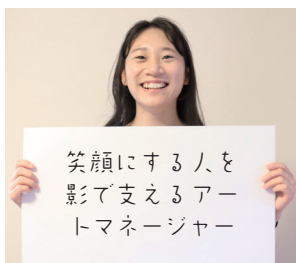
明るい未来を僕らの手で

当時中学生だった私たちも災害から今まで支えてくれた多くの人たちのおかげでここまで成長しました。自分たちの明るい未来を創るために今度は私たちも頑張ります。



宇和島南中学校5年生

自宅が被災したとき、たくさんの人に助けられました。次は私が皆さんを助けられる仕事がしたいです。



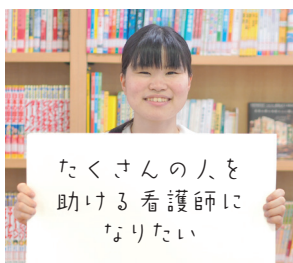
宇和島東高校3年生

災害に遭い気持ちが暗くなったとき、いろんなアーティストが笑顔にしてくれました。そんな人たちを影から支える仕事で宇和島の皆さんを笑顔にしたいです。



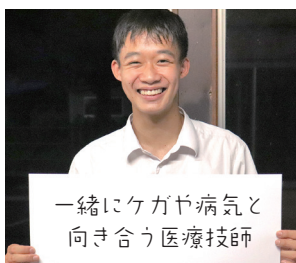
宇和島東高校3年生

災害当時とても不安でしたが、先生や地域の皆さんが支えてくれたおかげで安心して生活ができました。今度は、私が笑顔にできるよう頑張ります。



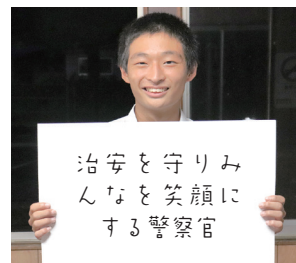
吉田高校3年生

家族の職場へ土砂が流れ込んだとき、地域の人たちにも助けられました。私も医療の現場で皆さんを助けられるよう頑張ります。



宇和島東高校2年生

小学生のころから医療技師になりたいと思っていました。被災した人たちのケガや病気を共に乗り越えていけるような技師を目指しています。



宇和島東高校3年生

町を守るための仕事をしたいと思っています。災害に遭っても皆さんが安心して生活ができるように安全を守る警察官を目指します。



吉田高校3年生

食事は私たちにとって大切なものです。非常時にも皆さんに正しく、早く届けられるような事務員を目指してがんばります。



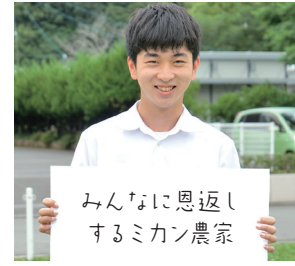
宇和島東高校3年生

あのとき、困っていた自分たちをいろいろな面から支えて勇気づけてくれたカッコいい自衛官に私もなれるよう頑張ります。



吉田高校3年生

電気は暮らしの中に不可欠です。災害が起こったときの不安な気持ちも明るくできるよう電気のメンテナンスをする仕事に就きたいです。



吉田高校3年生

実家のミカン園地が被害に遭いましたが、市内外の方のたくさんの方に助けてもらって今があります。今度は自分がおいしいミカンを作ってお返ししたいです。



吉田高校3年生

はっきりとは見えていないけど、こうしていろんな道へ進むみんなとまた集まれるようなつながりを作れるような人になりたいです。



吉田高校3年生

ミカン農家をしながら保育園でも働く母の背中を見て育った私。母のように優しく子どもが好きな頑張り屋の保育士になりたいです。



吉田高校3年生

暗い気持ちになっても観ると楽しくなれる。さまざまメッセージを表現するアニメ制作を裏から支える一員になれるよう学びたいと思います。



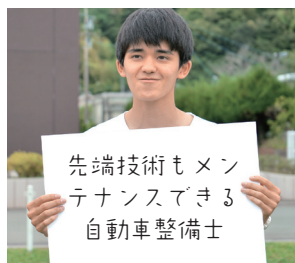
吉田高校3年生

災害で壊れた家がたくさんあり、その光景を見て誰もが安心して住める家を作りたいと思いました。災害に強い家を作れるよう学んでいきます。



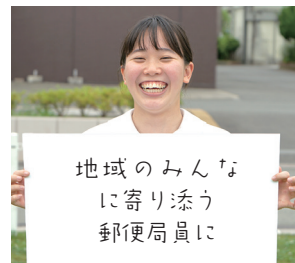
吉田高校3年生

昔からものを作ることが好きでした。もっといろんな技術を学んで、自分たちの生活を豊かにするもの作りをしていきます。



吉田高校3年生

宇和島の移動手段で大事な車。メンテナンスして安心して乗ってもらえる自動車整備士を目指しています。



吉田高校3年生

郵便は地域のいろいろな声をいろんなところに届ける大事なものです。想いも一緒に届ける地域に寄り添った郵便局員になりたいです。



吉田高校3年生

大切な子どもたちを預かる仕事は大変だと思います。でも大好きな子どもたちと一緒に笑って過ごせるような保育士を目指します。